

# 関東聾学校バレー大会 『情報保障プロジェクト』



令和元年度 専攻科2年 商業・情報系

[目的] スポーツ大会の情報保障を実際にやってみよう！



[内容]

○計画立案

○企画書作成

○UDトークの設置

○画面切り替え (UDトーク・パワーポイントなど)

○情報機器の管理 (iPad・プロジェクターなど)

○片付け



## 情報保障の様子

- ①本部に音声認識用のiPadを設置し、会場のワイヤレスマイクで発言した内容をUDトークで文字に変換する。
- ②試合の進行に合わせてスライドを作成する。
- ③2階の観客席の機器を操作し、UDトークとスライドを切り替える。



本部で  
表示する情報  
を作成

情報を更新  
することを  
フラッシュ  
ランプで伝達

送られてきた  
写真をスクリーン  
に出している

# [機器の配置と工夫]

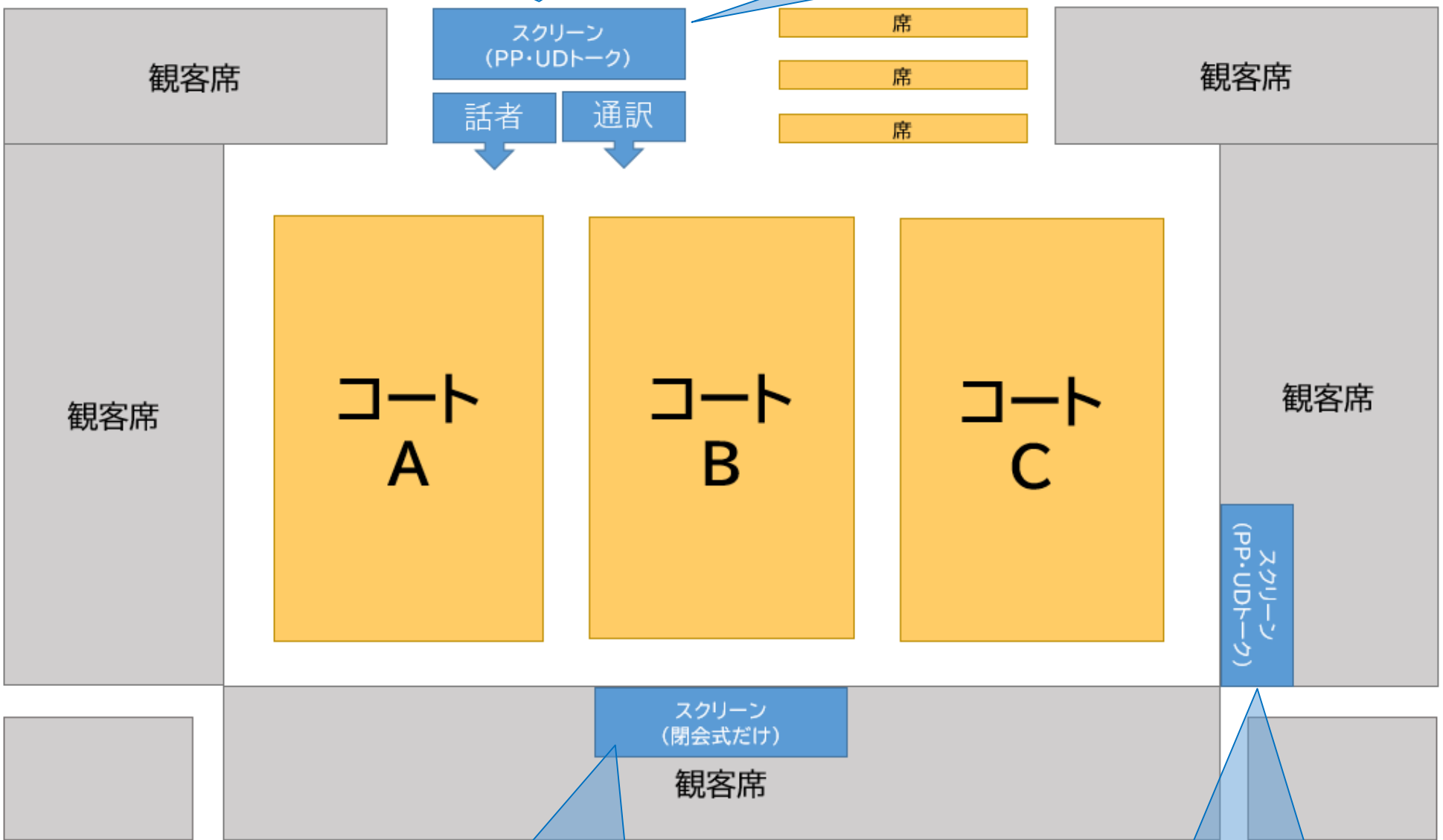
## [使用した道具]

プロジェクター・スクリーン・パソコン・iPad・ケーブル・コードリール・RCA(音声)延長コード  
→会場の音響設備と接続し、ワイヤレスマイクの音声をiPadに入力した。

はじめ大きいスクリーンを使用していたが選手への影響があるため、小さいスクリーンに変えた

スクリーンを真ん中に置くのではなくあえて、A・Bコート間に設置した

※イメージ図



向かい側の観客席からも見えるよう観客席両側にスクリーンを設置した

安全のため全部の配線をテープで固定した

# [認識率向上の工夫]

- 1 会場(東京武道館)の音響設備とiPadを直結させた。会場に設置されていた音響設備(ワイヤレスマイク)から認識用の音声を取得した。

事前打合せの際に  
接続端子がある  
ことを確認した。



- 2 単語登録機能の活用と認識結果の修正  
大会特有の語句や固有名詞を事前に登録した。  
例えば

葛飾校、筑波校、栃木・大宮校・・・  
(聾学校体育大会特有の呼び方)

認識結果に誤りがあったときは、  
即座にスマートフォンで修正した。  
繰り返し間違える語句を単語登録  
することで、認識率が向上した。

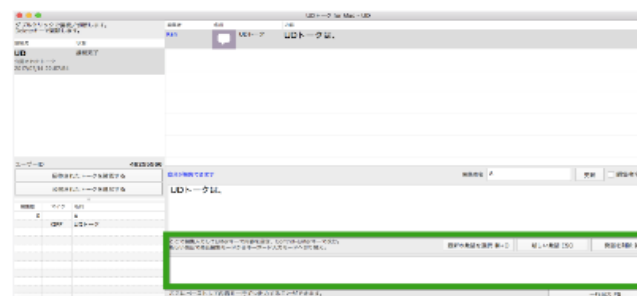
※固有名詞が登録されていないと、  
前後の語句も誤変換となりやすい。



- 3 事前原稿のある内容は、UDトーク パソコン版で送信  
開会式の進行や、挨拶文は  
事前原稿があるので、発言に  
合わせて、パソコンから送信  
した。

※難聴者の音声は認識が難しい  
が、この機能を使用することで、  
生徒の挨拶も文字化することが  
できた。

## STEP 8 事前原稿テキスト送信



用意したテキストデータをペーストして、1行ずつ送信できます。

# [アンケート調査]



アンケート対象  
高等部教員35名（回答数14件）  
高等部バレー部10名（回答数9件）  
商業・情報系専攻科2年5名（回答数5件）

Q1.UDトークを使用した情報保障は役に立ちましたか

全体	
A.大変良い	8
B.良い	14
C.普通	6
D.悪い	0
E.大変悪い	0
(回答者数)	28

情報保障にUDトークを使用したことは高い評価を得ることが出来た

一般の来場者にアンケートを実施することが出来なかったため、今後機会があれば実施したい

Q2.UDトークを使用した情報保障で良かった点は何ですか

## 良かったと思う機能

事前に原稿のない閉会式の審判長の言葉をUDトークで表示することが出来る

内カメラを使って手話通訳の人をスクリーンにカメラで大きく出す

スクリーンを2カ所設置することが出来る

# [反省]成果・課題



## ○工夫したところ

- ・明るい体育館で、文字が見えやすいように背景の色を変えるなど調節をした。
- ・安全のために配線全て、養生テープで固定した。
- ・落とし物について本部でスライドを作り、Air Drop(エアドロップ)でiPadに送信をして表示した。

※Air Dropとは、近くにいるiPhone・iPadなどApple製デバイスを使用している人と、写真や連絡先といったデータをワイヤレスで送受信できる機能のこと

## ○進めながら改善したところ

- ・LINEとAir Dropの二つを使うことでスムーズに情報表示をすることが出来た。
- ・選手たちにとって邪魔にならないよう、プロジェクターの場所を変更した。

## ○仕事をしたうえで役に立ったこと

- ・Air Dropを使って、PCで作成したスライドを送ることが出来た。
- ・遠くに離れている仲間を呼ぶとき、フラッシュランプで呼びかけた。

## ○課題

- ・仕事で必要に感じた力は、積極性・理解力・周囲の把握・臨機応変の対応力
- ・前もってちゃんと仕事の内容を把握するべきだった。
- ・今後は何かをやることに対して、前もってちゃんと把握できるように心がけていきたい。
- ・スマホの機能・例えばAirDropやKeynoteの他にさまざまな機能を使いこなせれば、スムーズに作業を進められると感じた。
- ・スマホの機能と周辺機器(プロジェクター等)の接続方法を覚えておき、トラブルの防止や復旧を行うことが、できる力は必要だと感じた。